

今日は、ゲリラ豪雨による淀川決壊、河川氾濫が発生した想定での避難訓練を行いました。

避難訓練を行う意味は、言うまでもなく、地震・水害・火事といった災害から自分たちの身を守ることです。

災害が起きてから「どうしたらいいのか」を考えているようでは、ダメです。

実際に避難訓練をしてみて、皆さん自身は、素早く行動できましたか。

今回は、淀川の堤防よりも高い場所に、素早く移動することを訓練しました。

それぞれの学年の移動時間は、1年生が5分11秒、2年生は5分17秒、3年生は報告が遅くなりましたが、概ね5分半ぐらいで移動完了はできていました。

このような状況でしたので、今回の避難訓練は、概ね素早く移動ができていたと評価します。

さて、今日の訓練では、色々なことを想像・意識しながら行動できましたか。

今日できなかったことがあれば、その失敗から、しっかりと学びんで下さい。

実際に河川氾濫があった場合、家に戻るとき、ロッカーの下足が流されていて、ぬかるんだ泥道をスリッパで帰宅しなければならいかもしれません。スリッパが脱げないようコンビニの買い物袋を紐替わりに使ったり、水が引き、配水車で飲料水が配られる、そのときには、コップも無ければ、入れ物がない、そうしたときに、水を貯めれるように、空のペットボトルが役立つかもしれません。ペットボトルを持ち出す等、災害がおさまった後の身を守ることを意識して行動することも必要です。

皆さんのお爺さん、お祖母さん世代が経験した昭和東南海地震（1944 年）

昭和南海地震（1946 年）の発生後、70 年以上が経過している現在、近いうちに南海トラフ地震が発生するのではないか、とされています。

近畿圏では、27 年前に阪神淡路大震災があり、多くの家屋や道路が倒壊しました。また、12 年前の和歌山北部地震、10 年前の淡路島、皆さんもまだ記憶に残っている5 年前の大阪北部地震と、大きな地震を経験しましたね。全国で発生している震度5以上の地震は、その 1/4 は、西日本で生起しています。関東・東海地方を含めると、全件数の 45%です。そのような統計からも、南海トラフ地震が、いつ発生してもおかしくない状況にあると意識した方が良いかもしれません。ある日、突然発生し、その時、どのように対処するか、その時々状況に応じて想像力を働かし、避難することが大切です。

本日の訓練を踏まえ、私からは、3つのことをお話しします。

1点目は、想定外を想定することです。

近年、ゲリラ豪雨により、車での移動中に冠水し動けなくなるケースや、本校周辺でも、農業用水用の水路がありますが、冠水時に、路面状況を確認できず、水路に引き込まれる等の事故や身の危険を感じさせる報告が頻繁になされています。また、バケツの水をひっくり返したような雨、豪雨による土砂災害、時季外れの台風等、これまで想定されなかったことが色々発生しています。そのように、自然災害が、身近に発生している今だからこそ、想定外を想定して行動し、危険から自分たちの身を守って下さい。

2点目は、他人事ではなく、自分事と考えることです。日々のニュースでは、必ずどこかで火事や事故が発生したとの報道がなされています。これだけ頻繁に報道されているということは、いつ私たち自身が関係者になってもおかしくないということです。出会いがしらの事故などもそうですが、いつ事故にあうか、わからないからこそ、日々安全に行動する(自転車の並走や音楽を聴きながらの自転車乗車等は行わない)、そして、仲間を、身近にいる人々をしっかりと守るって気持ちを持って、行動して下さい。

3点目は、危機回避のためには、迅速に対応することが必要です。

今日の訓練では、淀川が決壊した想定でしたが、1 年棟からは淀川堤防が良く見えますね。迫りくる濁流に腰が引ける思いをすることもできません。その時にも、水位や水流を確認し、3 階付近で大丈夫なのか、一方で、窓際などでは濁流がぶつかり、跳ね上がるしぶきや流木等が校舎に打ち付けられる、最上階への移動やガラス片から身を守る等、今避難している状況を冷静に分析し、どう行動するのが良いの

か迅速に判断・行動して下さい。

今いる場所の安全を確認し、また、避難している場所の特性を考え、危険を回避のために、何を優先するのか、自分自身の身を、そして友人も守れるよう行動を迅速にとれるようにして下さい。

繰り返しますね。

- 想定外を想定する。
- 他人事ではなく自分事。
- 危機回避のための迅速な対応

これらをしっかりと意識しておいてください。

これで、避難訓練の講評を終わります